

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 5 月 31 日

事業所名 共生型子ども発達未来塾一身田

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			児童が安全かつ安心感を持っていただけるような環境作りに継続して取り組みたい
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		車いすが通れるようにはなっているが、さらに改善できる余地はある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者の評価結果と合わせ分析し、保護者の思いを大切にしたい支援や連携の強化に向け、討議提案の上、実施していきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後情報を得て、実施について検討したい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			より幅広い職員に研修機会を提供し、その内容を全体にしっかりと周知できる体制を取っていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者とのコミュニケーションを図り、聞き取り等をしやすくしている。	相談支援などの外部関係機関との連携もさらに強め、支援計画が現場の実践に生かされるようにしたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		関係機関との連携を継続強化する中でアセスメントツールが現場の計画により生かしていけるように意識的に取り組んでいきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			今後も職員間で意見を出し合える体制を取り、関係機関との連携を強め、活動プログラムの立案を行いたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			引き続き利用児童が意欲関心の持てる内容にしていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		平日は利用者の現状を踏まえ、見守りをしていき、休日や長期休暇についてはさらに幅広く魅力的な課題やプログラムの立案を行ってきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			適切に行うとともに共生型という利点を生かし、効果的な支援を行えるように計画していきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日常的に職員間のコミュニケーションをとるようにしている。	職員間のコミュニケーションを図り、継続引継ぎ等がスムーズに行われるよう工夫していきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		日常的に職員間のコミュニケーションをとるようにしている。	職員間のコミュニケーションを図り、継続引継ぎ等がスムーズに行われるよう工夫していきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を取りやすいような書式にしている。	職員一人一人が日々の記録を正しく記録を行い、管理者が確認するようにしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		日々の記録をモニタリングに生かしている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		ガイドラインを常に閲覧しやすいようにしている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			会議のみならず、日常的な情報・意見交換に努めていきたい。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		問題発生時などに迅速に連絡・連携体制をとるようにしている。	日常的な連絡・連携体制と併せて、状態像や支援内容などの情報共有にも意識して取り組みたい。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			現在、該当児童はいないが、外部機関等と連携を強め、情報収集や学習を深めていきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			今後より連携を強め、情報収集・提供や学習を深め、相互理解に努めていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			卒業による移行の前例はないが、他機関への情報提供は行っていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				今後さらに連携を深め、アドバイスや研修を受ける中で支援の質や向上を図っていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○				共生型である利点を生かして支援がより効果的に行えるように努めていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○			機会があれば参加し、情報共有をしていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時等に伝達の機会を持つようにしている。	送迎時における伝達や連絡帳の記録などを基本に相互理解の深まりを目指しているが、今後面談など直接的なかかわりの機会を少しずつ増やしていきたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			保護者との連携を強める動きと併せて検討していきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				今後も保護者に分かりやすく説明できるよう心がけていきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				今後も相談しやすい環境や体制作りに努める。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			父母会や保護者会は未実施であるが、保護者との連携を強化し、保護者間のつながりの大切さを踏まえ討議の上、側面的に支援していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			契約時にその内容と体制について説明している。	契約時の説明を継続し、苦情等が発生した際にはマニュアルに従い、誠実に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				活動概要や行事予定等の情報は書面やSNS等で発信しているが、今後も継続的に情報発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	○			個人情報を含む書類等は鍵のかかる書庫に保管している。	個人を特定する内容は発信しない、書庫は施錠するなどしっかりとした個人情報の保護に努めているが、常に細心の注意を払い、保護者の意思確認や心情等にも配慮してすすめる。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				利用者・保護者向けの情報やイベントなども含め、積極的に発信し、情報共有を図り、前向きな取り組みをしていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			現状では未実施であるが、新型コロナウイルス感染が収束すれば検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアルは整備されており、職員間の周知はなされているが、保護者に対してはもう少し徹底していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的を実施しているものの、保護者への周知は不十分なところもあるため、徹底していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待防止法の目的・責務を踏まえ、より充実した内容で効果的に実施していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	人権擁護の立場で支援に当たっている。	これまで該当するケースがなく未実施であったが、今後に備えて準備を進めたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			おやつや食事を提供する際には生命にかかわることとして、緊密に連携・確認を取るようにしていきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	個々の事例について打ち合わせ時には確認している。	情報を収集・共有し、事故を未然に防ぐ手段として上手く活動できるようにしたい。